

岩屋山 観音たより

発行所：和歌山県

海草郡下津町橋本一〇六五

福勝寺内

電話 (073) 494-0322
編集人：本多碩峯

修行僧・同行二人 本多碩峯

二十一世紀は生きがいの創造(一)



聖徳太子像

コンピューターは善か悪か

第一の文明開化を明治維新、第二の文明開化を第二次大戦の終戦、そして今日を第三の文明開化とも云われております。過去の明治維新に於いても終戦に於いても最も大切な日本伝統文化を無くしてしまつた経験を持っている。

今日の変革は経済や科学や技術、クローン人間、家庭生活等に於いてもコンピューターを語らずにあり得ない。そこでノーベル賞受賞者湯川秀樹博士著書「生きがいの創造」でお書きに

なつておられる事を紹介します。

『私などが、科学者の社会責任というよつなことを真剣に考えるよつになつたのは、勿論これは原子力問題が原因です。核兵器の問題が深刻になるのに伴つて私も反省も深まり、人類意識といつも結びつけながら平和運動に参加する、といつよつなこともしてきた。しかしそつという段階では、自然認識を深めるための純粋な研究、たとえば私が素粒子の研究をしているといつことと、原子力の利用を目的とする研究とは

真理の花たば



「四望碍り無し」

東西南北は人の作つたもの、ほんとうは四方を望み見るに、何のさまたげもない。

弘法大師講本部・四国六番安楽寺

住職・畠田秀峰師書

はつきり区別ができた。素粒子の研究にしても、当分、何の役にもたんでしよう、今の見込みでは。しかし、そのために金を使つても私がかまわんと思うのです。人間の自然認識を深めてゆくと云つことは、非常に価値あることだと私は思つています。しかし、ここでの問題は、基礎と応用とに、研究の性格をはつきり分けられたといつ点です。ところがだんだんそつという問題が、ほかへも広がつていきました。たとえば自動車なら自動車の事故が多くの人の生命を奪つとか、

明日への装を提案します!

寝装・和装・洋装・総合繊維卸

株式会社 **マスメン**

代表取締役 増田都司夫

本社

〒640-8376 和歌山市新中通2丁目8

TEL (073)424-4466(代表) FAX (073)436-6508

豊かなまちづくりに参加します!

株式会社 **田淵建築設計事務所**

代表取締役木田耕藏

本社

〒640-8287 和歌山市築港4丁目2-1

TEL(073)431-0261(代表) FAX(073)431-3898

あるいは自動車に積んだ燃料が大きな火災を引き起こすとか、さまざまな火災がありまして、それもやはり技術的な問題だと、技術家が非常に反省して、経済性より安全性というよつなごの方に力を入れなければならぬのだという反省を強くされるよつになつたのは、大変心強いのですが、しかし、問題は、さらに、もつとひろがってきて、もつと違つた段階に入りつつあるように思います。というのは、二十世紀後半の著しい特色の一つは、生命現象、生物に関する学問が非常に勢いで進みつつあることです。そつちの方まで考えますと、事情が違つてくる。ここにある種の微生物がありまして、この微生物は人間にとつてあまり有害でないかもしれない。しかしそつちのものをいろいろ条件を変えて培養したりしている、いろいろの変種があらわれる。その中に非常に危険なものがあつても知れない。あるいは、その微生物が人間の病気の病原体だつたらそれを絶滅するための抗生物質を研究する。そつちの抗生物質の発見は人間に大きな奉仕をしたことになる。ところが、そつちの抗生物質が普及すると、それでは死ななかつたよつな変種の方が繁殖する。前よつちもつちの悪いのが出てくる。するとまたそつちの悪い、普通の抗生物

質で死ななかつた微生物を別の化学物質でやつつけんならんことになる。そつちと、それは死ぬけれども、また別の變種で、何をやつても死ななかつたよつなものがはびこる。それだけでも困ることですが、さらにもしも、そつちの強い病原体をわざと繁殖させ、軍事目的に使つたよつなことになる、問題は新しい段階に入つてくる。つまり、そこでは基礎と応用、科学と技術とに分けて考えられなくなる。原子力の場合と違つて、医学や生物学に関する領域までひろがってきますと、研究そのものが、そのまま善悪さまざまな利用法へとつながりうるよつになつてくる。それからまた、数字みたいなものでも、実用と何の関係もないよつな研究が多かつたが、二十世紀後半になつて事情が大きく変わつてきた。数字は現在では非常に役立つ学問、おそろしく役に立つ学問になつてきている。しかも数字と直結した計算機といつもの重要性が大きくなつてきた。

電子計算機には、善も悪もないといつけれども、しかし善も悪もないといつところに、どんな目的のためにも使えらなかつたよつな恐ろしさが潜んでいるのです。このよつに、もはや科学、技術なんて分けられないのであつて、技術もひつくるめた科学といつものが、一人人間にとつて何を意味しているのかといつよつなことを考えると、われわれ科学者の責任といつよつな問題も、前の段階よりはつとむつかしいことになる。技術者が、技術とは一体何か、人間にとつて何かといつことを大いに反省されるのは、たいへん結構で、心強いことだけれども、しかし私は現在から将来を考えますと、技術をふくめた広い意味の科学とは一体なんだろつつかといつことを問題にせざるを得ない。・・・人間にとつて科学とは何か・・・人類の未来と科学の未来とが複雑にからんで予測がほとんど不可能だからです。それがまた、私たちの生きがいをどこに見いだすべきかといつ身近な問題にも、重大な影響を及ぼすわけですね。といつておられます。

今日、世界で問題になつてきている衣食住に加え、企業社会は勿論、家庭内、教育の場で交通運輸、医学の先進技術が生活の物質的豊かさの半面数々の予期しない問題が発生している実情を湯川秀樹博士はこの時、私たちに警笛を鳴らされているのです。

人類の歩み

時計の針が進むにつれて、人類は進歩しているのだといつ考へる人がいれば、驚くべき無知である。

もし、時計が進むにつれて、人類の文化が進歩するものなら、先に生まれ人間は不幸で、後に生まれた人間ほど幸福でなければならぬ。しかし、このよつな樂觀主義は、歴史の鏡にかけて支持するわけにゆかぬので



皆さんのスーパー
株式会社 みち屋

代表取締役 **道畑 勇**

- 本 部 和歌山市岩橋7 2 9 番地の 6
TEL (073) 473-4197
- 松 島 店 和歌山市加納2 4 6 番地の 1
TEL (073) 474 - 3500
- 貴志川店 那賀郡貴志川町大字北山5 1 7 番地
TEL (0736) 64- 7020



大切な法事料理は
経験豊富な三都家におまかせ下さい！

お昼は日替わり献立
で皆様をお待ち
しています！

〒640-8393
和歌山県和歌山市畑屋敷端ノ丁24
TEL(073)423-3355 FAX(073)422-4522

ある。一方、このような楽観主義をいだきながら、農業界もグローバル化の問題になると、突然早がりして危険だ、不安だと悲観論者に早がりする人もいる。

私は農業には無知で門外の者ですが、父の下で育み、父の残した沢山の資料を整理しながら、農業政策も他の産業と比べることもなく、人間の智慧に負うところが大きい。

時間は進むにつれて無秩序の方向へ向かっているという。然も木から落ちたリンゴが元に戻らない。過ぎ去った時間は戻らない。

時計の針が進むにつれて、生命は刻々と失われつつあるのであります。進歩主義とはこの一点から目をそれし、その日その日を送るをい、生死という生命の一大事は、ぼけてしまふ。今日の急務は、一大事の感覚を食文化の上にも回復することであると考える。

賀川豊彦と稲森和夫

賀川豊彦氏と稲森和夫氏は互いに異なつた時代を背景として生きがいの創造への道を歩んでいることに歎心する次第です。

賀川豊彦氏を紹介するには少し詳しく紹介しよう。明治二十一年七月十二日神戸市生まれ、神戸神学校を卒業後米國に留学、プリンストン大学同神学校及びシカゴ大学を卒業後歸國、キリスト教布教に従事しながら

民衆の救済に従事、大正七年には関西労働総同盟会長となり、神戸市細民街に隣保館設立。その後労働組合、農民組合、協同組合等のあらゆる組合運動に先鞭をつけた。現在の灘生協の創立に関わつたことは有名な話し、関東大震災には難民保護に当たり、その時、帝国経済会議が設立され議員に任命され神戸から鐘淵紡績社長武藤山治、川崎造船所長松方孝次郎、鈴木商店総支配人金子直吉、そして賀川豊彦の四人が選ばれた。

賀川豊彦が指導した労働組合との労働争議で、松方孝次郎の経営する川崎造船所や金子直吉の關係していた神戸製鋼所を相手に四十四日間も大ストライキをしています。その松方孝次郎や金子直吉とむしるこの争議が縁で非常に親しい関係になつている。

昭和二十年には、厚生省救済委員会委員、同省顧問、内閣総理大臣官参与、日本社会党を組織し顧問となるなど、終戦後の混乱した社会に活躍し、同二十一年には貴族議員に勅選され、全国農民組合会長に就任す。その後も終始キリスト教布教に従事、貧民救済事業、社会事業等の指導実践啓蒙宣伝を行う。

社会倫理観と企業倫理観

賀川豊彦と稲森和夫が同世代の人であつたら、今日、秩序乏しく問題の多い、社会倫理観と企業倫理観が素晴らしく、世界に誇れる最も幸せな國家になつてい

賀川豊彦はクリスチャンでありながら『法華經』を学び、『易經』学んでいる。

天の心 地の心

今日、ブームになつてきている陰陽道、我が國では平安時代にさかのぼり安倍晴明(あへせいめい)によつて導入された。陰陽道の原点「易經」は紀元前百年頃の中國周王朝のときに、連山・歸藏を体系化して易(えき)と名付けて、『易經』という書物が出来たという。

日本の古いに關する古い記録は、『魏志倭人伝(きしわじんでん)』に倭(日本)の國の人間は、「なにかことがあるときは、骨を焼いて(ぼく)し、吉凶を占い、火の裂け目を見て占つた」としてさされているから三世紀のころの日本には陰陽道の影響があつたらしい。「ト」とは、龜の甲羅(こうら)や動物の骨を焼き、そのひび割れの形を表したものである。また、中国の聖人孔子は、時代の激しい変転期には「天」を基準として人の心を易(かえ)るよつとに、『易經』を編集した。

キリストは「私は一人じゃない、天の父といつても一緒にいるのです」と十字架を選んだ。

お釈迦は当時インドでは四姓制度(カースト)・バラモン・クシャトリア・ヴァイシヤ・シュードラの四階級の最も高い種族バラモンに生まれ奴隷種族のシュードラよりも低い出家をするバラモンの同門からこの世に無い罵倒される『汝よ、バラモンのみ眞正なる子にし

て、その口より生まれたり、梵天より生まれ、梵天によりて化生され梵天の相続人なり」とまた「バラモンの女は経水(月経)あり、妊娠し、子を孕(はら)み、子を産むこと経験するに非ずや。而も実に彼等バラモンは胎より生まれつつも斯く言う「バラモンは最上なる種族なり...乃至...梵天の相続人なり」と。彼らバラモンは実に虚言を吐き甚(はなばな)しく罵倒して不名誉を与ふ。しかも以下三階級について説いて罵倒する。最も低い制度シュードラ・首陀羅、奴僕階級を最も卑しい種族だと、それでも汝(釈尊)はバラモンの最上の階級を捨て、最下位の種族以下に出家するのかと罵倒される。

釈尊は菩提樹の下で六年間修行をし、バラモンの王位を打ち捨て、「天の心」を見ることで零「地の心」からの出発、勇敢にすべての人々に平等にして、自己中心の生活を否定し、真人間に立ちかえれることをここで説教したのであつた。

即ち釈尊は「人間の貴賤(きせん・差別)は四姓(カースト)の如き階級の高下によるのではなく、その人格価値の有無によることを説いて、四姓の平等なることを力説し、この世の初開展より説き起こして四姓の起源に及び最後に此等四姓の何人とい

えども法を体得せんとする者こそ人類の最上の者である」と起世因本経に書かれている。

賀川豊彦はクリスチャンであり、日本国内キリスト教布教師であるが故に日本伝統の儒教や仏教を学んでいる。

賀川豊彦は「宗教は日本でも、ギリシャでもそうですが、四つの段階『肉体的、心理的、道徳的、そして宇宙的』で発達してきている。そして宇宙的になった宗教、仏教・キリスト教・イスラム教などが世界で広がっている」と言っています。

零からの出発

釈尊バラモン階級から解脱し、零から再出発した、勇気をもつ必要がある。

賀川豊彦がいう。二十年八月二十六日の晩、東京霞ヶ関の総理大臣官邸に招かれて、東久邇宮に会った。その時総理大臣はいわれた『今日まで、日本は間違っていたのですから……これから総懺悔で行きましょう……』と言つ言葉が、そのすべてであった。

キリストも『心貧しき者は幸いなり天国はその人の者なり』と、山上の垂訓に教え、はじめから何もなかつてもりであればよいと、教訓

われわれが、自ら買いかぶって、価値のある者だと思つから、失敗の場合、自殺をしたり無茶したり、脱線したりする。始めからないものが、全部無くなつたところで、心配はないはずだ。

だから、賀川は何かが新しい仕事する場合、それで自分が設けようとか、得をしよとかの考えで始めたことがない。少しでも他人のためになれば、それでよいので、損をしても、他人に迷惑をかけない。得をしても自分が儲けられない、その気持ちで始めながら、うまく行かない場合でも不平を言ったことがない。

奉仕者には失業はない

自我を主張せず、他人のためになるつとして出発すると、失業することはない。「懺悔の生活」を書いた、西田天香氏が他人のために働く人間に失業することはない」と書いていたそうです。賀川豊彦自身社会組織を五十年間、組織作りで専念してきた。貧民窟の隣保館の組織を始めとして労働組合、消費組合、質庫信用組合、医療組合、農民組合、生命共済組合など、いつも未組織の所を見つけて、組織しては人に渡し次から次へ、奉仕専門にやってきました。

それで、ただ忙しければかりに、半生を送ってしまったが、失業する心配はなかった。

天に向かつて立ち直る

賀川豊彦は言つ、仮に失敗しても落胆はしない。日本人の悪いくせは、人を

け落そう、け落そうとすることである。そこに日本人の大きくなれない欠点がある。アメリカ人に欠点も多いけれども、ヨーロッパ人にも見られない美点は、少しよい特徴があると引き上げてくれる点である。それがアメリカの文化を進ませる理由になっている。

昨今の日本の国会での出来事に新しい兆候と見て良いのだろうか。アブラハム・リンカーンが大統領に当選したのは、彼が失意のどん底にいた時であった。その時、かれは上院議員選挙に落選し、田舎弁護士としてくすぶっていた。ところが、シカゴで開かれた共和党大会は、彼を大統領の候補者におし、全国投票の結果、大統領に当選してしまつた。こういうことは、日本ではちよつと想像できないがリンカーン自身もびつくりしただろう。

『大きな困難に出くわした場合、天に向かつて立ち直ることが第一条件である。易経もそれを書いてるが、われわれもそれをよく心得ておかねばならない。』

綺麗に失敗する勝利者

中国では、三国志に出てくる関羽(かんご)を非常に尊敬する。彼は戦争に負けた人である。彼は友人を、後漢の王様にするために、敵の捕虜となり一生苦労した。だが一生苦労した関羽は、中国の道徳的標準の人物となり、村々町々に偶像として崇められるようになった

- 第 1 章 「地上最深の谷間
- 第 2 章 天然のマンダラの中へ
- 第 3 章 王城の四日間
- 第 4 章 カリ・ガンダキ河畔に還る
- 第 5 章 百泉の流れるところ

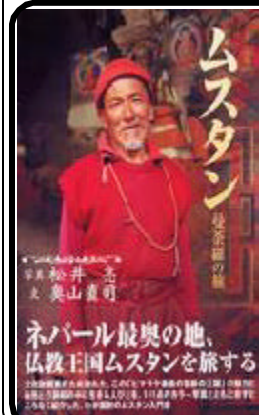
松井 亮【写真】

奥山直司(高野山大学助教授)【文】

B6判 販売価額 ¥ 2,800 円【税別】

中央公論社出版

文化財調査のため訪れた、この「ヒマラヤ最後の禁断の王国」の魅力と自然との融和の中に生きる人びとを、101点のカラー写真とともに余すところなく紹介した、わが国初のムスタン入門書。



つまり人間というものは、成功したから偉いのでなく、失敗してまきれいに失敗するならば、それが人生として大きな勝利者である。

事業倒産

私自身、関西地方で最も早くマイクパソコン・コンピューター応用ベンチャー企業を起業、夢多く、華々しく、米国にまで進出、夢見て船出するも、企業倒産、十数億円の負債を抱えてどん底に転落、数ヶ月後、主取引銀行から「本多さん、過去を忘れ、今日からの事を考えて頑張つて下さい」と許しを得て、四国八十八ヶ所

徒歩巡拝を決定する。それまで、今日では想像も出来ないような事が次々と起こる。尼崎在住の人生の師で石材店を営んでいる立本さんの空き家を借りて住んでいました。ある夜中にドアを叩く音に恐る恐るドアを開けると尼崎の市中銀行支店次長さん、本多さん、支店長からの差し入れです。傷み難い食品です。と、ワイフと二人迷惑掛けた銀行からの贈り物、涙溢れる感激です。

『ありがとございませす。一生忘れません。お金が無くて、少しでもお役に立てる人間を目指します』と、ある時、やはり夜中にドアを叩く音に恐る恐るドアを開けると見知らぬ人が立っています。取引をしてきた大企業の会社の総務の係長

と自己紹介の後、当社の技術部長からお話で担当業務からは非、本多さんにお目に掛かり相談に乗って上げることと突然夜分訪問しました。実は本多さんは弁護士も雇えないで大変困つておられると聞きますが、もし善ければ当社の顧問弁護士をご紹介します。弁護士士の了解を得ております。明日、弁護士事務所でご紹介致します。但し、一切当社とは関係御座いませんが、常務から一日も早く立ち直り社会復帰して下さい祈っています。と、ご迷惑を掛けながら、このような行為に何を以て感謝すればいいのか。

ある遍路の物語

悪夢のようなあの日から、半年ぶりに我に返り、心に浮かんたのが、ある本の「遍路遍」が気になった。実はお遍路に行く人は不治の病、事業等の失敗者、心の苦しい病を病んだ人々が人生の最後・死に訪れる旅、と思つていた私がこの本の記事を読んで、自分の考えが間違いであった。それどころか、この記事に感動した事が潜在意識に残っていたのです。その内容は「ある遍路さんが修行の道場と言われる土佐の国での出来事、その日の最後の札所（お寺）を打つて山越えに備え小さな遍路宿に泊まることにし、”ごめん、お願いします”と声を掛ける。奥から出てきた若い女将さんが、”すみません、今は遍路宿をしていないのです”との返事が返ってくる。遍路さんは”ああそうですか”と歩き出す。ところがこ

の遍路さんが腹も立てずに山道を歩き出す、あの女将さんの姿が気になつてしかたがない。あの女将さんに何かご不幸があるような気がする。立ち止まつてもう一度、振り返り合掌し一心に女将さんに、幸せをもたせよう祈る。一方断つた女将さんは”遍路道最後の宿で過ぎれば深い山道に入り山越えしなければならぬ。何と失礼な事をしましたと、”気になるあまり、玄関を外を覗き遍路さんの後ろ姿を見ようと”するとその遍路さんが此方に一心に合掌して祈っている姿に申し訳ない心

で”お遍路さん！先程はすみません！お入り下さい。”と声を掛けずいられません。女将さんは自分より不幸なことがきつかけで徒歩巡拝している遍路さんに反省の気持ちを含め、”お泊まり下さい”と。暑い夏の夜、カヤを吊つた寝床に入る。疲れた体でぐっすり寝るや気になる目を覚ます。うつつつするも寝付かれない。畳を叩くバタバタの音”遍路さん気になり静かに襖を開ける、すると、その光景は”赤ん坊を板の床に寝かせ女将さんがそばに座つて団扇で蚊を追い払うための床を叩く団扇の音であった”遍路さんが自分が寝ている布団が女将さんと赤ん坊の寝布団だったことを知るのです。自分に宿を断つた理由を知る

ことになる。赤ん坊の大切な寝布団を取つてしまつた事を詫びる結果となる。女将さんも”主人に死なれ、遍路宿だけで食べて行けず、家財道具を少しずつ手放し、遍路宿さえ出さなくなつた”事を語り、お互いに生きる尊さを語り合い、女将さんもお遍路さんに赤ん坊の幸せな成長の祈願を託し、お互いに明るく生きがいある生活を誓い合つて明朝、遍路宿を次の札所に向けて女将さんに見送られ山道に消えてゆく。零から出発しなければならぬ私でも何かに役に立てると。

自分も四国八十八ヶ所徒歩巡拝を決定する事になり、私自身もこの物語に劣らない素晴らしい御縁を頂き、徒歩巡拝の満願、最後に高野山へお礼巡拝に登つた。以来今日まで十回、車での満願を達成、重要文化財の由緒ある福勝寺で修行の幸せな生活を送っています。今年のゴールデンウィークは中二に登校拒否以来、高校に行かず、現在は大検の受験勉強中の十六歳の青年と父親の一同泊修行に、当地の二十九歳の青年が境内作業を修行として来寺。人、それぞれ苦しみ喜びを分かち合おう。

道を歩くものこそ勝利者

賀川豊彦はいう。『大阪人は面白いところがあつて、”解け合い”とい

つものをする。これは恐慌(きょうこう)がくるぞ、みんなで助け合(たすけあ)って許(ゆる)し合いをするといつのである。実は、私の創立した大阪の消費組合共益社も、一回以上整理して、債権者に頭を下げた。しかし、大阪の商人は、正直にやっている者にたいして、決して破産者の宣告をしない。それで、今なお大阪消費組合共益社ははじめてより三十六年(一九五五)でたったが、寿命がつついていゝる。だから筋の通った経済活動ならば、おそらく永久に永久に続くものと、私は考えている。大もつけしようとか、ごまかして、人の金をあつめようとか、誇大広告をして、詐欺的行為に出なければ、不景気になつたらといって、人のためにつくして来た、経済行為を社会が葬(くわ)むるものでない。

私は聖人君子の足跡をかえりみてそこに「道」といふものがあり、その「道」の植を歩く者には、失敗そのものすら、人類にとっては、成功への勝利の道であることを信ずるものである。』と、

更に賀川は言つ『利己的に儲けようとする暴力行為から損をするのである。はじめから他人のために奉仕しようとする仕事に損は絶対に無いし、景気、不景気の変動も考える必要もないくらいである。

要するに、強迫や、強制で、世界の不安を取り去ることはできない。不景気のない世界を創造するために自由な気持ちで、互助共済の協同意識に目ざめ、全人類の連帯性を組織化すればよいのである。国際連合が世界の未開発地域の開発を計画しているが、早くそれを成功させる必要がある。

しかし、世界の最も遅れている未開発地は**人間の心の奥地**であることを自覚する必要がある。

宗教というものは

宗教というものの根本は、宇宙の目的を標準にして自分がそれに従つて歩むことにあり、これを宗教という。

密教で大宇宙で五大要素 地・水・火・風・空 が育むのが地球であり、唯一つ生物、すなわち一切の生きとし生けるものがそれぞれの生物の輝く個性を以て南極といえ、北極といえ、亜熱帯といえ、サハラ砂漠といえ、尊い命を育んでいるのです。我ら人間もその生物の仲間であり、識 すなわち生きとし生ける生物の中で唯一つ「心」を持った生物である。これを六大要素という。

宗教という言葉はラテン語で「宗教」という言葉を「レリギオ」といってこの言葉は同時に標準という意味を持つていゝるそうです。つまり宇宙の物指し(法則)にしたがって生活をすゝるといふことなのです。

ですから自分の仕事が天からの使命だと思つて生きてゐる人こそ、一番宗教的人物だと思ひます。

宗教に四つの目的

賀川豊彦は宗教を信ずる場合の目的にも大きく分けて四通りあるという。

一つに肉体に関する目的「腹が減つたら食べたいとか、家内安全、我身の息災とかいふことを頼むもの。

これについては日本では普通に宗教と考へてゐるけれども、これは自己宗教あるいは生理的宗教という。しかし、そついつことであつたら、病気の時だけ、あるいは何か悩みがある時だけしか目的を持たないことになる。

二つには技術に関する目的「字や歌等が上手になりますよ」とか「いたもの。これを心理的宗教といふものです。

三つにはさらに少し進んで道徳的目的「精神修養になるよ」とか勉強ができるよ」とか「いって頼むもの。ここまで個人的なものです。ここで終わらないでさらに進んで、

四つには個人の完全のみならず、例えば世界に戦争がないように、世界平和がくるよつと人類全体の安全と幸福を考へる等の目的「これが社会的宗教、あるいはリクツぽくいうならば、宇宙宗教といふのです。宗教といふのは、どこの国でも日本でもそつだし、ギリシャでもそつですが、たいていそつといふ四つの段階(肉体的、心理的、道

徳的、宇宙的)で発達してきてゐるのです。そして宇宙的になつたものだけ、たとえば仏教とかキリスト教とかイスラム教とかいふものが世界に拡まつてゐるといふ。

密教の安心(あんじん)

今日人間のエネルギーが物慾にかたより、その結果物質文化の輝かしい世代となつた。それで人間社会は幸福になつただろうか、そうではない。いつしか物量の谷間に陥入(おちい)り、自ら作つた機械と組織の下積みになり、情報の渦に溺れて人心の不安は益々深刻になる。グローバル化による大企業と小企業の格差、社会のメガロポリス(Megalopolis)化による大都市と地方都市あるいは都市と農村の格差が拡がり、家庭では貧富の差が大きくなり、事故と公害は日夜起り紛争や犯罪も加わつて、人命はいつも脅かされてゐる。もはやロボットの制御がきかなくなつて傍者無人(ぼうしやむじん)に暴れ出したよつなものだ。それがよく解つていながら施すすべもない。どこかに何か狂いがあるのではないか、それを見つけねばならないが、それには先ず心を取り戻す事が先決だ。

凡そものの奥に心がある。その心とは何か、それを掘りおこし、その

心の上に物質文明を立て直してこそ始めて人心の安らぎがあり、真実の平和と繁栄がある。

生命は心を生む

私たちがこの世に生命を宿した時に何を生むか、それは心を産む。心は何のためにあるか、それは宇宙の目的を果たすためにある。

現代人は意識するとせぬにかかわらず皆、唯物主義の考え方を心の底にもって居ります。

肉眼即ち眼耳鼻舌身(げんにびぜつしん)の五官の感覚に映するもの色あり形をもつた所謂(いわゆる)物質だけが實在で、それ以外のもは何も無いという思想です。思想として意識しなくても、そのような考え方がいつも心の習性となつてこびりつき、所謂常識となつて居ります。

実は五官に映するものはほんのものごとの表面で、肉眼で見えないところこそ何ものかが一ぱいに満ちているのです。その方こそ實在で、肉眼で見える色や形はその實在の上の現象にしかすぎないのです。恰(あたか)も水が無数の波となつて見えても水が本体であるように、眼に見えない實在が底にあつて、そこから現象を生じている。神秘

の實在が、すべての現象の根源をなしていることに気づかないのです。

湯川秀樹博士が著書「目に見えないもの」の中に、およそこの宇宙世界は仮に物質から成立していると定めておいて、この物質はその形質から固体・液体・気体の三つに分けられることが出来、これを物質の三体という。それらの三つをさらに分けて行きますとその結果その微細な分子と言つた。これらの分子を化学的に処理すると九十六種の元素に還元する。

酸素・水素・亜鉛・鉄・ウランニウム、等という九十六種である。この元素の単位を原子と言つ。今、これらの原子を電気分解すると、何れも共通した一つの構造をもつており、それは陽電気の陽電子核と、陰電気を帯びたいくつかの電子の固い結合であるとなつたのです。核の中には陽子の外に電気を帯びていない中間子もありませんが、とにかくこの固い原子の結合が、何等かの人為的な操作によつて壊れる時、恐るべきエネルギーが出るのが分かり、このような不可思議な神秘とも言つべき力をもつた原子力があらゆる物質の本体を成しているのです。

更に眼を転じて天空を仰ぐ時、太陽も、その他の光を放つている無数の恒星もそれ自らこのようなエネルギー源にして、限りなき宇宙線や放射線を放つて大宇宙の生成の働きをなしているのとわかり、単なる物質が本体だと言つような唯物論は最早成立しない、と言つておられます。

とにかく何か神秘的な力、靈的なエネルギーがすべてのものの土台となつて居るからこそ、それから千変万化の色彩を現じ、個々の物質的な現象となつて暫くもじつとしていない。いつも動き遷(うつり)り変わつて止まらないのです。

例えば、花一輪の咲くのにも、大宇宙の力は光となり、熱となり、水となり、風となり、土となり、それらのすべてが縁となつて作用して開花します。私一人、今日一日生きるにも天地の力があらゆる栄養となつて、肉体を養い、人々の心を通して生まれた文化の光が私の心の糧となつて、生かしてくれるのです。お釈迦様が正覚の眼で見抜かれて、「諸行は無常なり」と説かれました。

「諸行」とは、「諸の行くもの」で、うつり変わるすべての現象を言います。即ち「よろずのものごとつりゆく」のが現象界本来の相(すがた)です。それは何故か、神秘的な、言わば宇宙一ぱい生き通しの實在が土台となり、そこから種々な因縁関係に依つて変現出沒しているのが現象世界であり、それが物質となつて色形を具えているからです。古きものは壊れ、そこから次々と新しいものが生まれ限りなき発展も約束されるのです。お釈迦様は、覚りの眼を開いて世のものごとの実相を達観され、「諸行無常」を第一の真理としてお説きになつたのであります。ですから生まれる役目と死ぬ役目と両方が宇宙にある。結局、宇宙には進化のための死と言つものがあり、そして段々前へ前へと進んで行つて居るのです。それをただ「死ぬ」とばかり考える



有限会社
代表取締役

ミヤタケ
宮下隆博

〒640-8329
和歌山市田中町4-119
TEL(073)422-2327 FAX(073)436-5598



人に優しい音声発生装置!

有限会社 日本メディテックス
代表取締役 山口昭昌

〒641-0054
和歌山市塩屋5丁目5番43号
TEL(073)446-2009 FAX(073)446-3696

から悲しいと思つのですが実際は宇宙というものは素晴らしい設計が出来ているのです。

側から何が出来るか。

ノーベル賞作家大江健三郎氏が賀川生誕百年事業での講演で語ったテーマが「信仰を持たないもの側から何が出来るか」として次のようなことを言っています。

大江健三郎氏が障害者を持つたご子息が居られます。大江さんのお母さんが賀川豊彦の大正の初めの日本で、貧しい生活をしている人々の生活をイキキと描いた詩集と小説「死線を越えて」を大切に持っていてさわらせてくれたかったそうです。小説は棚の上にあつたそうですが、大江さんは大変興味をひかれてお母さんが留守の間を読んだそうです。母が読ま

せなかつた理由に主人公の青年が世話をしていた女の子が娼婦先に売られてしまつので、その女の子を訪ねて一晩泊まるという部分があり、勿論、布団は別々なのですが、朝夕、その女の子が主人公の青年の布団に入ってくるという言葉があつて、それで母は健三郎に見せなかつたそうです。後々母が読んでいいよと言って渡されたとき、いい子になつて「死線を

を越えて」を読んだそうです。ご自分も小説を書くようになって、あんなに多くの読者を得ることができないのは何故だろうかと考えたそうです。

それから何年もいろいろ文学の勉強をしているうちに、その理由が分かってきたようになったそうです。

その理由について具体的に話されたのですが、それは賀川豊彦を大江氏の小説家の立場から見た賀川豊彦の人生全体を考へることであると、私たちが現代において何が出来るかという課題で語られております。第一は賀川は神戸で、伝道や救済事業を通じて、貧しい人

たちを救おうとしたことを背景に健三郎氏が実際自分がどのような貧しい人たちと出会つたかを語られています。「涙の二等分」
「おいしが泣いて、目が醒めて、お襦袢(むつ)を更へて、乳溶いて、椅子にもたれて、涙くる。男に飽いて、女になつて、お石を拾ふて、今夜三晩、夜昼なしに働いて、一時ねると、おいしが起す」
「お石を抱いて、キッスして顔と顔を打合わせ私の眼から涙汲み、おいしの眼になすくって...」
「あれ、おいしも泣いているよあれ神様
おいしも泣いています」

貧しい人たちの子供が死ぬと、すぐ賀川豊彦が呼ばれ引き取つたそうですが、あまり多いので調べると、貧乏で赤ちゃんを育てられない人から赤ちゃんを預かつて、乳や食物を与えないで餓死させてしまつことが分かつたそうです。

死んでしまつた赤ちゃんが泣けないので自分の涙を赤ちゃんの眼にぬつてあげた、それを涙の二等分と言っているのです。

本当に賀川豊彦の最も底辺の哀れみを越え地球を越えて宇宙全体をテーマにした人であつた大江健三郎氏は言っています。

「現実に密着していく態度と、その現実をこえて宇宙全体でものを考へるような態度この二つが一人の人間の中に統一されている」それが賀川豊彦であると言つた。

「一人て賛美歌を歌い、一人て説教を始めると、多くのボ口を着た貧民や妙な顔をした労働者が集まつて来た。町の美しい電氣燈が光る。地にある襪れを捨てて、天を見よ」と叫びながら、自ら天を仰ぐと天は限りなく晴れ渡つた春の夜に、無数に星が輝いている。実に美しい。星の下に長く引かれて電線までが今夜に限つて美しい。栄一は、自分が荒野に叫べる人の子、一個の預言者であると言つたことをつくづく考へた」と小説「死線を越えて」が路傍説教から始まる。
かつて、障害者を持つた子供が生まれた時苦しくて、苦しくて、それでもどうしたら良いかと思つて、広島原爆病と闘つている人に会いたいと考へ、広島島に行つたそうです。そこで、現実に密着する力、現実をこえ

たものに対する目、これらのことを障害者を持つた息子さんと生きて行くことによつて与えられたそうです。愛する夫が戦死し靖国神社に祀られることにキリスト者である方が反対して裁判に訴えられたそうです。

判決が多くの人々が神道を信仰しているから、キリスト教を信じているあなたは「寛容」であれと書いてあつた。日本は二十一世紀で大多数の人が賛成しているから少数の者は我慢することこそ「寛容」であると言つている。これが逆ではないかと。大江健三郎氏は言つた。宗教は信仰を持たない障害者、老人、これから益々増えるであろう貧しき人々、反社会的な者を賀川豊彦のような信仰に立つて、宇宙観と現実観に立つての行いに協力して働きたい。次号へ

編集後記

今年も寝屋川南病院の院長ご夫妻一行十名参詣、奥様は六字名号の御軸を奉納以来、一行には毎年チベットへ医療診断でボランティア。医療関係の方は得度され立派な勤行。外大のフランス語の先生で、補陀洛観音信仰に詳しい。手作りの山菜食物に皆さんご夫妻に喜んで頂く。

今は境内の紫陽花が三百本程つぼみを付けて手入れ、タケノコ掘りに、保存加工に忙しい。

高野山大学院へ受講に通学を始める。